

6-6

介護保険制度だけでは救えない多問題家族へのアプローチ

総括：困難事例解決のための全市的取り組み

在宅介護支援センター

支援センター・府中市立あさひ苑高齢者在宅介護支援センター

支援センター長代行・清野 哲 男

東京都府中市朝日町3-17-1

TEL：042-369-0080

E-mail asahi@tama-dhk.or.jp

FAX：042-365-4683

URL

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

府中市立あさひ苑高齢者在宅介護支援センターは平成5年に特別養護老人ホーム併設で、介護保険開始とともに居宅支援事業も委託され、地域の要支援要介護高齢者の生活の安定化を図ってきた。

〈取り組んだ課題〉

- 地域を担当する在宅介護支援センターが中心となって、関係各機関と連携し、児童虐待や介護放棄といった複雑な問題を内包する多問題家族へのアプローチをした。

〈具体的な取り組み〉

- 高齢者見守りネットワークという仕掛けの中で、早期発見、介入を行っている。
- 府中市では、地域包括支援センターが核となって、エリアを担当する地域型の在宅介護支援センターで拾い上げたさまざまな困難事例を、担当地区ケア会議事例検討会という場で、関係各機関が知恵を出し合うことで、高齢者（あるいは要援護者）とそのとりまく、心身障害や経済的困窮者に対する支援方法を検討し、実践に結び付けている。
- 対象となる家族が抱える問題を洗い出して、その都度、関係する各機関に連絡、集合をかけ、課題を整理し、よりベターな支援方法を積み上げていった。

〈活動の成果と評価〉

- 制度の中で、ばらばらに支援しがちな関係機関が、多問題家族への複合的な支援方法を検討することで、連携を強め、次々に発生する困難事例に対する支援体制を確立できた。

〈今後の課題〉

- 虐待や介護放棄（育児放棄）、経済的搾取といった問題に対して、地域への理解を浸透させ、大きな問題に発展する前に、発見介入できるシステムの維持と普及啓発。
- 認知症や精神障害から起こる様々な問題や、核家族化の影響で増え続ける身寄りの無い高齢者への、支援方法の確立。
- 在宅支援という方法を模索しながらも、最終手段として特養機能を生かしたアプローチの維持。

〈参考資料など〉